2 セットアップ

StorageServerのセットアップの方法について説明します。

設置と接続

StorageServerの設置と接続について説明します。

設　置

⚠警告

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外の場所に設置しない
- 一人で部品の取り付け・取り外しをしない
- 規格外のラックで使用しない(ラックタイプのみ)

⚠注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 一人で持ち上げない

設置条件

StorageServerの設置にふさわしい場所は次のとおりです。

- サーバの動作時に室内温度10℃～35℃、湿度20%～80%(ただし結露しないこと)の範囲を保てる場所(室内温度15℃～25℃の範囲を保てる場所での使用をお勧めします。)
- AC100V、平行二極アース付きの壁付きコンセント
- 添付の電源コードが届く範囲にあるコンセント
- ほこりの少ない、きれいで整頓された部屋
- 床の上(タワータイプ/ラックタイプとも)、または水平でじょうぶな机や台の上(タワーモデルの場合のみ)
- サーバの前後に150mm以上のスペースがとれる場所(タワータイプのみ)
- スタビライザで固定できる場所(タワータイプのみ)
- フロントベゼルを完全に開けることができるスペースのある場所。(フロントベゼルは完全に開けると左側面から約35mm飛び出します。)(タワータイプのみ)

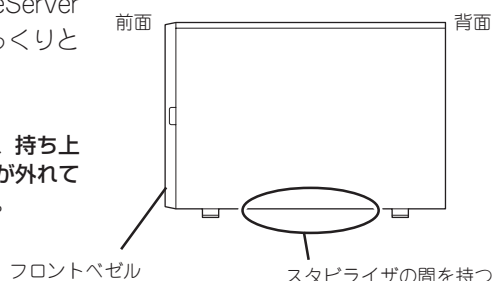
設置にふさわしくない場所

次に示す条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所にStorageServerを設置すると、誤動作の原因となります。

- 温度変化の激しい場所(暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く)。
- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガスの発生する場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 本装置の電源コードを他の接地線(特に大電力を消費する装置など)と共用しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ(商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど)を発生する装置の近くには設置しないでください。(電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください。)

設置手順　~エントリモデル(タワータイプ)の場合(N8100-725)~

設置場所が決まったら、2人以上でStorageServerの底面をしっかりと持って、設置場所にゆっくりと静かに置いてください。

装置前面のフロントベゼルを持って、持ち上げないでください。フロントベゼルが外れて落下し、装置を破損してしまいます。

設置手順　~ミッドレンジモデルの場合(NS8100-722J01)~

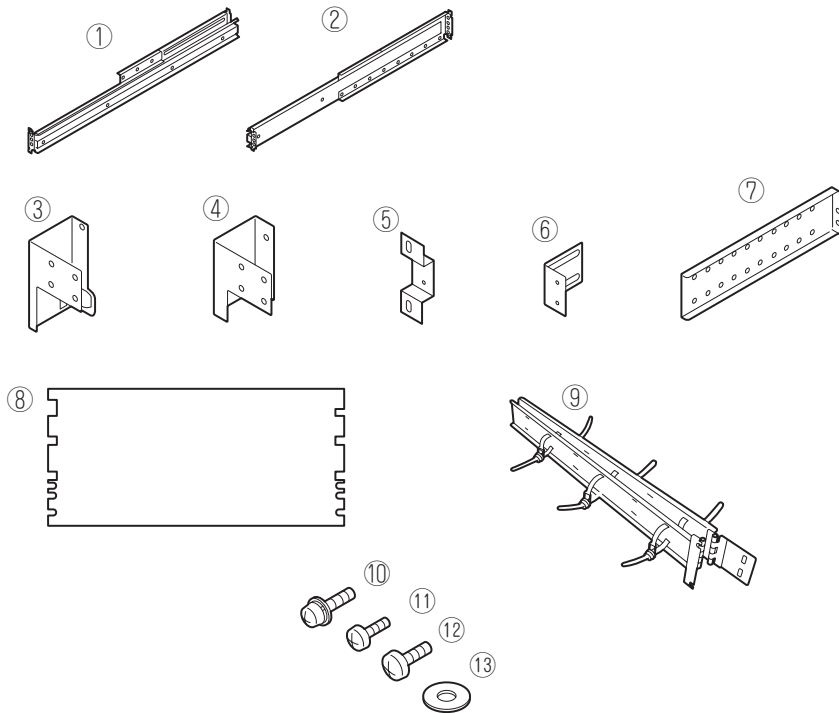
設置場所が決まったら、次の説明に従って設置します。
ディスクエンクロージャユニットの搭載についてはディスクエンクロージャユニットの「ユーザーズ」を参照してください。

重要

- **ラックへの取り付けは特殊な機器や工具が必要です。設置は保守員に依頼することもできます。**
- **ラック内部の温度上昇とエアフローについて**

  複数台の装置を搭載したり、ラックの内部の通気が不十分だったりすると、ラック内部の温度が各装置から発する熱によって上昇し、Expressサーバの動作保証温度(10℃~35℃)を超え、誤動作をしてしまうおそれがあります。運用中にラック内部の温度が保証範囲を超えないようラック内部、および室内のエアフローについて十分な検討と対策をしてください。

取り付け部品の確認

ラックへ取り付けるために次の部品があることを確認してください。

項番	名称	数量	備考
①	レールブラケットアセンブリ(L)	1	インナーレールは装置に取り付け済み
②	レールブラケットアセンブリ(R)	1	インナーレールは装置に取り付け済み
③	キーブラケット	1	
④	アームブラケット	1	
⑤	ラックブラケット	1	
⑥	スライドプレート	1	
⑦	スライドブラケット	1	
⑧	テンプレート	1	
⑨	ケーブルアーム	1	
⑩	ネジA	9	PL-CPIMSx4x10x15BF
⑪	ネジB	14	CPIMSx#6-32UNC
⑫	ネジC	10	CBIMSx5x10x3GF
⑬	ワッシャ	10	M5-14

必要な工具

ラックへ取り付けるために必要な工具はプラスドライバとマイナスドライバです。

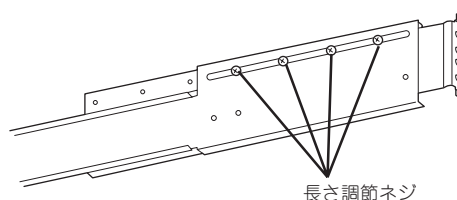
取り付け手順

次の手順で装置をラックへ取り付けます。

1. 添付のテンプレートを使ってレールを取り付ける位置を決める。

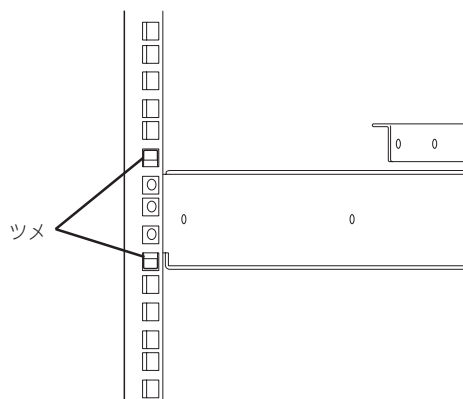
   ラックの重心をなるべく下にするためにも装置は下側に取り付けることをお勧めします。

2. 左右のレールブラケットアセンブリの「長さ調節ネジ」を外れない程度にゆるめる。

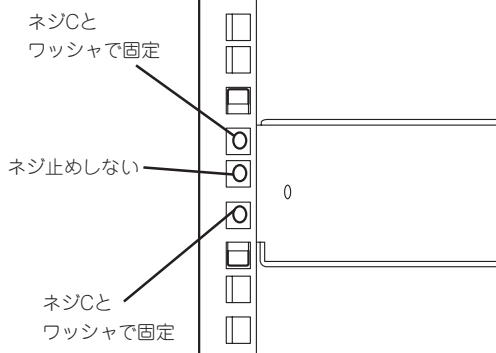
   ネジは1つのレールブラケットアセンブリに4本ついています。

3. テンプレートで決めた位置にネジ穴が合うようレールブラケットアセンブリのツメをラックの四角穴に合わせる。

- レールブラケットアセンブリの取り付け位置(右/左)と向き(前後)が合っていることを確認してください。ラック前面に向かって右側に「R」と刻印されたレールブラケットアセンブリを取り付けます。ラック前面に向かって左側に「L」と刻印されたレールブラケットアセンブリを取り付けます。

  また、ネジ穴が3つある方をラックの前方に、ネジ穴が4つある方がラックの後方になります。

- レールが水平に位置決めされていることを確認してください。

4. レールブラケットアセンブリをネジC(8本)とワッシャ(8個)で固定する。

ネジは1つのレールブラケットアセンブリに4本ついています。

レールブラケットアセンブリ1個につき、前方/後方それぞれ2カ所をネジ止めします。

5. 手順2でゆるめたネジを固定する。

重要

ネジはしっかりと確実に締めてください。ゆるんだ状態のままだと、StorageServerがぐらついたり、落下したりすることがあります。

6. もう一方のレールブラケットアセンブリを手順2～5と同じ手順でラックに取り付ける。

取り付けたレールブラケットアセンブリが平行な位置にあることを確認してください。

注意

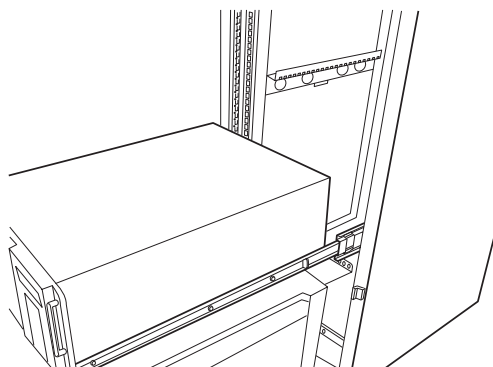
装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

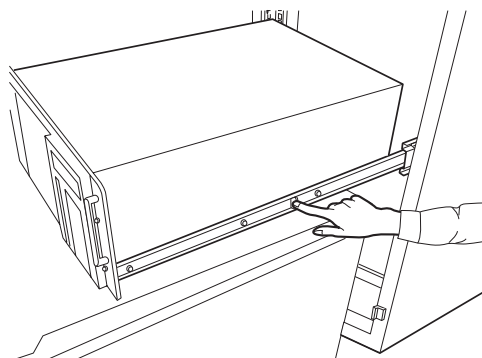
- **一人で持ち上げない**
- **指を挟まない**

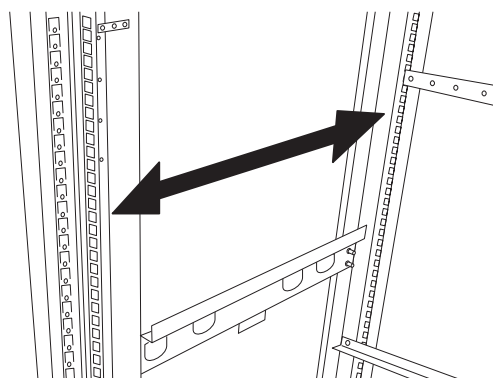
7. 複数名でStorageServerの底面をしっかりと持って持ち上げる。

8. 左右のレールブラケットアセンブリにStorageServer両側のインナーレールを差し込む。

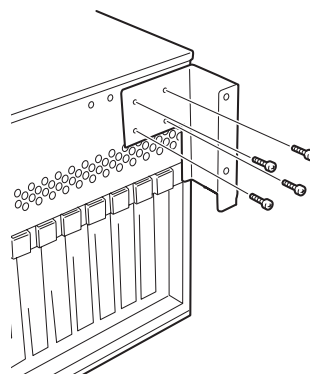
9. ゆっくりと静かにラックへ押し込む。

途中でロックされます。

10. StorageServer両側にあるインナーレールのレリーズラッチを押して、ロックを解除してからラックへ押し込む。

初めての取り付けでは各機構部品がなじんでいないため押し込むときに強い摩擦を感じることがあります。強く押し込んでください。

11. ケーブルアームを取り付ける。

ケーブルアームの取り付けはラックの奥行きによって使用する部品と取り付け手順が異なります。ラックの奥行きを測定してからそれぞれの説明を参照してください。

ラックの奥行きが700～729mmの場合

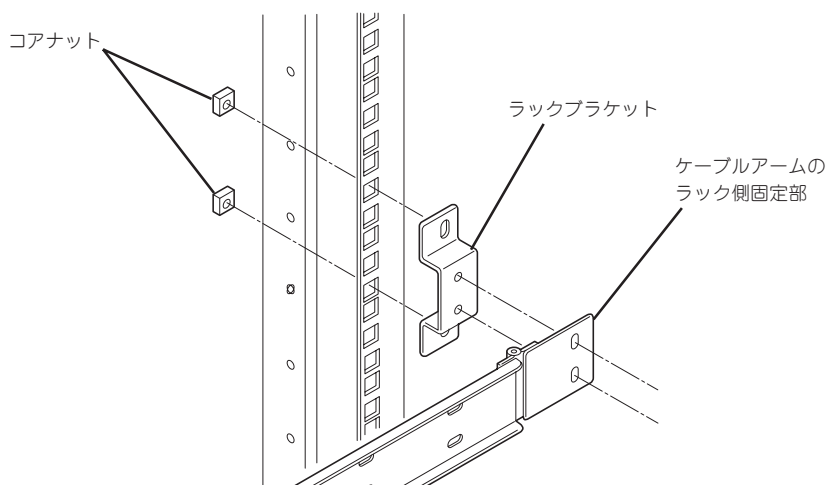
1. アームブラケットをStorageServer背面にネジB（4本）で固定する。

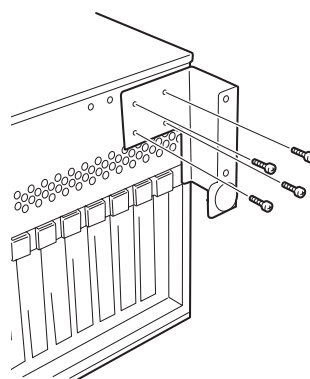
セットアップ

2. ラックの四角穴にラックに添付のコアナットを2個取り付ける。

   コアナットの取り付け位置は添付のテンプレートを使用して確認します。

3. ラックブラケットをコアナットを取り付けた位置に合わせてネジC(2本)とワッシャ(2個)で固定する。

4. ケーブルアームのラック側固定部をラックブラケットにネジB(2本)で固定する。

5. ケーブルアームのサーバ側固定部をアームブラケットにネジB(2本)で固定する。

ラックの奥行きが730～769mmの場合

1. キーブラケットをStorageServer背面にネジB(4本)で固定する。

2. ケーブルアームのサーバ側固定部をキーブラケットにネジC(2本)で固定する。

3. スライドブラケットをラックにネジC(2本)とワッシャ(2個)で固定する。

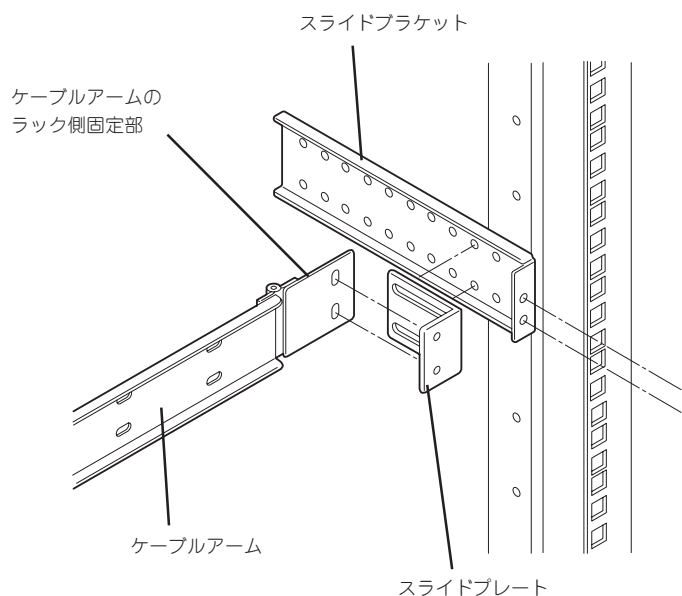
   スライドブラケットの取り付け位置は添付のテンプレートを使用して確認します。

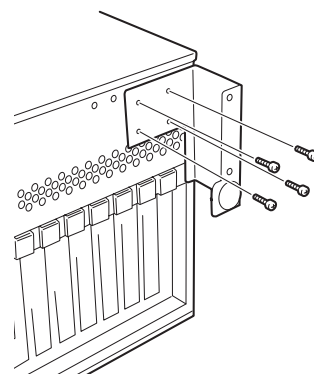
4. スライドプレートとスライドブラケットをネジA(2本)で固定する。

   スライドプレートの位置は本体をラックから引き出し、ロックされるまで引き出し、ケーブルアームを延ばした状態で決めてください。ケーブルアームとスライドプレートを仮止めしておくとスライドプレートの位置を決めやすくなります。

5. ケーブルアームのラック側固定部をスライドプレートにネジB(2本)で固定する。

重要

- **以上の取り付け作業が完了したら、一度本体をラックからゆっくり引き出し、ロックされることを確認してください。また、本体をそれ以上引き出せない状態になっていること、およびラックへ押し戻すことができることも確認してください。**
- **ロックできない場合(本体をロックされるまで引き出すことはできないが、押し戻すことはできる状態)は、スライドプレートの取り付け位置が正しくありません(本体がロックされる場所よりケーブルアームが先に延びきっています)。スライドプレートの取り付け位置を調整し直してください。**

ラックの奥行きが770～900mmの場合

1. キーブラケットをStorageServer背面にネジB(4本)で固定する。

2. ケーブルアームのサーバ側固定部をキーブラケットにネジC(2本)で固定する。

3. スライドブラケットをラックにネジC(2本)とワッシャ(2個)で固定する。

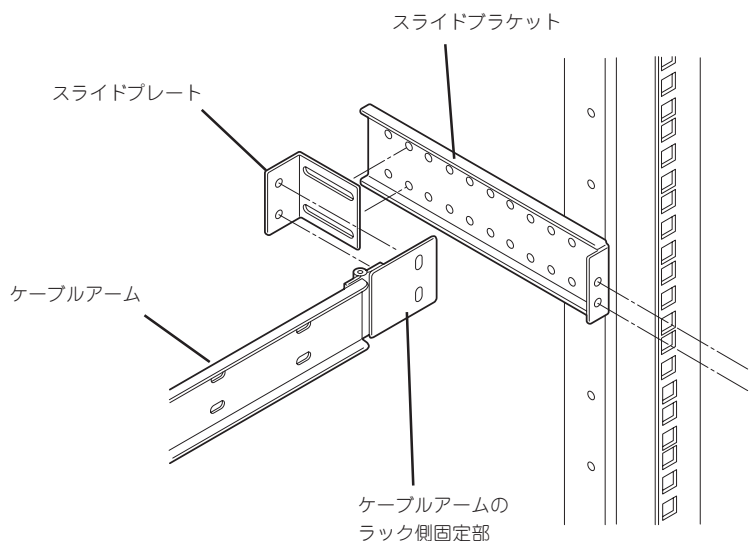
   スライドブラケットの取り付け位置は添付のテンプレートを使用して確認します。

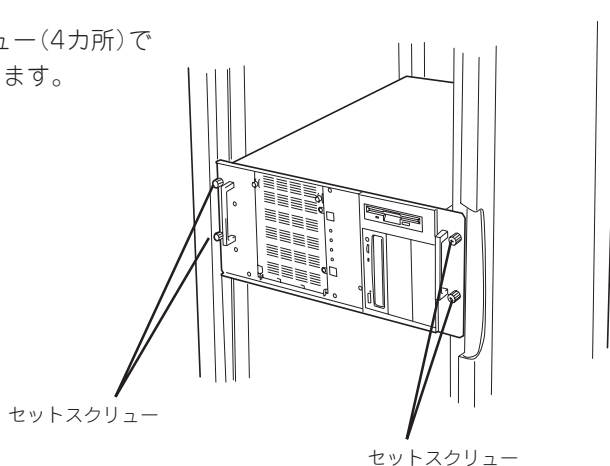
4. ケーブルアームのラック側固定部をスライドプレートにネジB(2本)で固定する。

5. スライドプレートとスライドブラケットをネジA(2本)で固定する。

   スライドプレートの位置は本体をラックから引き出し、ロックされるまで引き出し、ケーブルアームを延ばした状態で決めてください。

重要

- **以上の取り付け作業が完了したら、一度本体をラックからゆっくり引き出し、ロックされることを確認してください。また、本体をそれ以上引き出せない状態になっていること、およびラックへ押し戻すことができることも確認してください。**
- **ロックできない場合(本体をロックされるまで引き出すことはできないが、押し戻すことはできる状態)は、スライドプレートの取り付け位置が正しくありません(本体がロックされる場所よりケーブルアームが先に延びきっています)。スライドプレートの取り付け位置を調整し直してください。**

最後に前面にあるセットスクリュー(4カ所)でStorageServerをラックに固定します。

以上で完了です。

取り外し手順

ラックからの取り出し作業は必ず複数名で行ってください。手順は取り付け手順の逆を行ってください。

⚠注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 一人で持ち上げない
- 指を挟まない
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない
- 動作中に装置をラックから引き出さない

設置手順　～エントリモデル(ラックタイプ)の場合(N8100-726)～

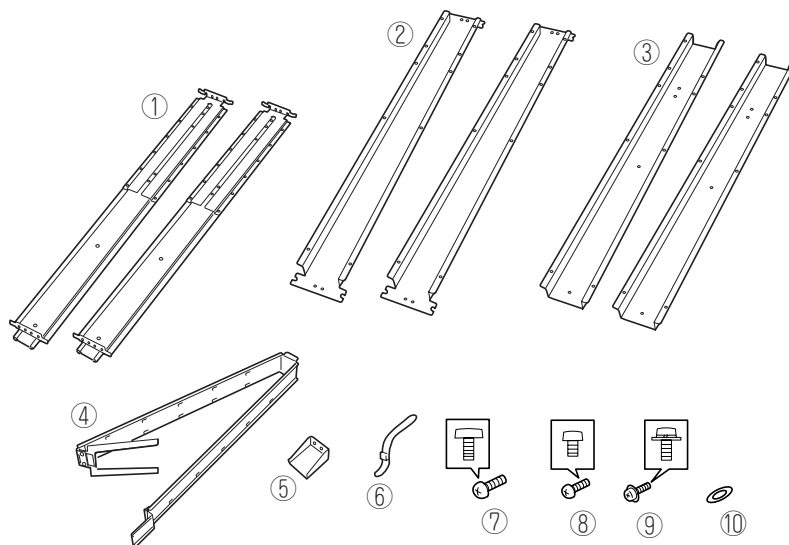
設置場所が決まったら、次の説明に従って設置します。

重要

- ラックへの取り付けは特殊な機器や工具が必要です。設置は保守員に依頼することもできます。
- ラック内部の温度上昇とエアフローについて

  複数台の装置を搭載したり、ラックの内部の通気が不十分だったりすると、ラック内部の温度が各装置から発する熱によって上昇し、Expressサーバの動作保証温度(10℃～35℃)を超え、誤動作をしてしまうおそれがあります。運用中にラック内部の温度が保証範囲を超えないようラック内部、および室内のエアフローについて十分な検討と対策をしてください。

取り付け部品の確認

ラックへ取り付けるために次の部品があることを確認してください。

項番	名称	数量	備考
①	ガイドレール(U)アセンブリ	2	インナーレールは装置に取り付け済み
②	ラックブラケット	2	N8540-28/29/38専用
③	レールブラケット	2	N8540-28/29/38専用
④	アームアセンブリ(SA)	1	
⑤	アームブラケット	1	
⑥	ケーブルタイ	20	長さ: 25cm
⑦	ネジA	8	ミリネジ
⑧	ネジB	4	インチねじ
⑨	ネジC	20	ワッシャ付き N8540-28/29/38専用
⑩	ワッシャ	8	⑦用のワッシャ

必要な工具

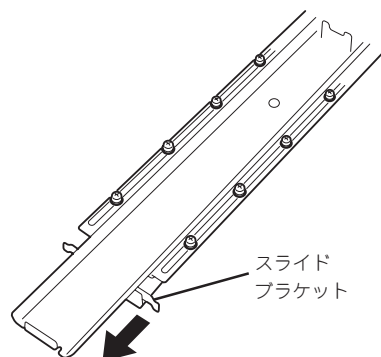
ラックへ取り付けるために必要な工具はプラスドライバのみです。

取り付け手順　～NEC製ラック/他社製ラック～

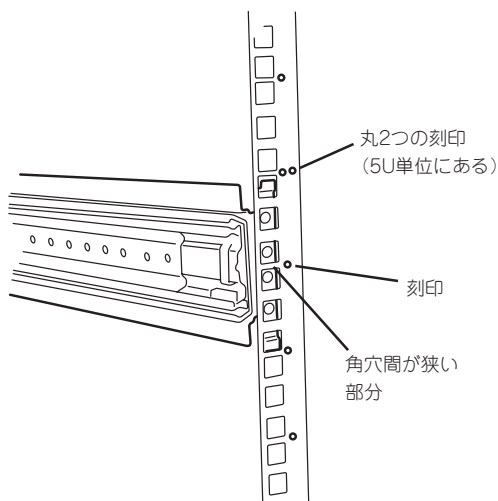
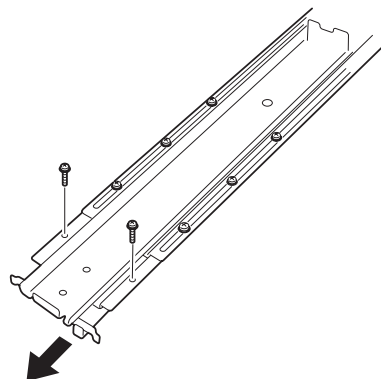
本装置はNEC製および他社製のラックへ取り付けることができます。次の手順で装置をラックへ取り付けます。

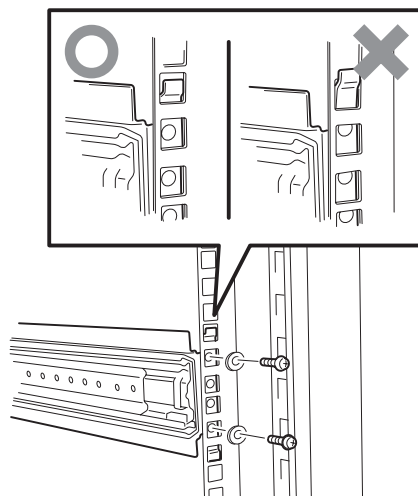
重要 **NECのラック(N8540-28/29/38)への取り付けについては、この後の「取り付け手順～N8540-28/29/38用～」をご覧ください。モデルの識別はラックに貼り付けられている装置銘板で確認できます。**

1. ガイドレール(U)アセンブリのスライドブラケットを固定しているネジ8本をゆるめる。

   ラックの奥行き(前後の支柱間)にガイドレール(U)アセンブリの長さを合わせるためです。ネジをゆるめるとスライドブラケットが前後にスライドします。

2. ガイドレール(U)アセンブリをラックのフレームに位置決めする。

   チェック

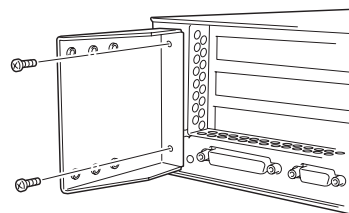
   - ガイドレール(U)アセンブリの取り付け方向を確認してください。
   - ラック前後の支柱にはネジ止め用の角穴があります。上下の角穴の間隔が狭い部分がガイドレール(U)アセンブリの中心に位置するように位置決めしてください。NEC製のラックでは、1U単位に丸い刻印があります。刻印がガイドレール(U)アセンブリの中心に位置するように位置決めしてください。

   ラックの奥行き分の長さが足らない時は、先端にあるネジ2本を外してスライドブラケットを延ばしてください。

3. ガイドレール(U)アセンブリをネジA(2本、前後で4本)とワッシャ2個(前後で4個)で固定する。

- ガイドレール(U)アセンブリの先端にあるフレーム先端がラックの角穴のフレームに突き当たっている状態で、レールのネジ穴(4個)が角穴から確実に見えていることを確認してください。
- レールが水平に位置決めされていることを確認してください。

4. 手順1でゆるめたネジを締めてスライドブラケットを固定する。

5. もう一方のガイドレール(U)アセンブリを手順1～4と同様の手順でラックに取り付ける。

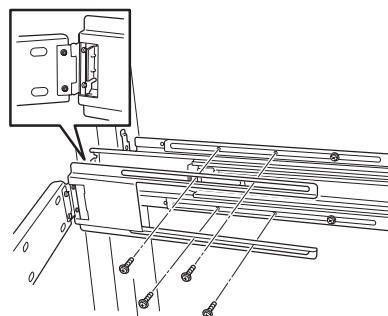
チェック

すでに取り付けているガイドレール(U)アセンブリと同じ高さに取り付けていることを確認してください。

6. ネジB(2本)でアームブラケットを装置背面に取り付ける。

7. ラック背面から見て左側のガイドレール(U)アセンブリにあるレールをラック前面に少しスライドさせる。

8. アームアセンブリ(SA)の端をガイドレール(U)アセンブリに固定する。

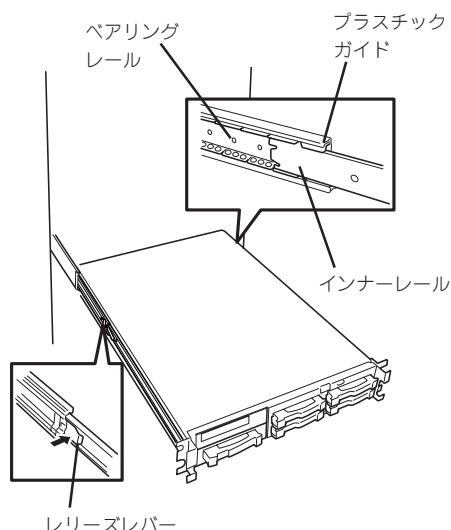
重要

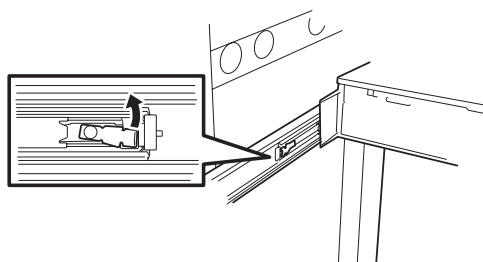
右図のようにアームアセンブリ(SA)の継ぎ目の部分とガイドレール(U)アセンブリの先端を突き当てて、アームアセンブリ(SA)の取り付けに必要なネジをガイドレール(U)アセンブリからいったん取り外し、アームアセンブリ(SA)と共締めし直します。

9. 2人以上でExpressサーバをしっかりと持ってラックへ取り付ける。

⚠ 注意

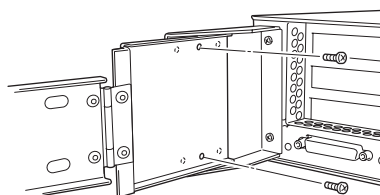
装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **一人で持ち上げない**
- **指を挟まない**

Expressサーバ側面のインナーレールをラックに取り付けたレールに確実に差し込んでからゆっくりと静かに押し込みます。インナーレールの差し込み口でプラスチックガイドとベアリングレールに差し込むようにすると取り付けやすくなります。
途中でExpressサーバがロックされたら、側面にあるレリーズレバー(左右にあります)を押しながらゆっくりと押し込みます。

チェック

途中でロックされた場合は、レール中央部分にあるロックレバーの状態を確認してください。ロックされている場合は、レバーを水平にしてロックを解除してから差し込んでください。

初めての取り付けでは各機構部品がなじんでいないため押し込むときに強い摩擦を感じることがあります。強く押し込んでください。

10. アームアセンブリ(SA)のもう一方の端をアームブラケットにネジB(2本)で固定する。

アームブラケットの6個のネジ穴のうち中央の2個のネジ穴に固定します。

11. Expressサーバを何度かラックから引き出したり、押し込んだりしてスライドの動作に問題がないことを確認する。

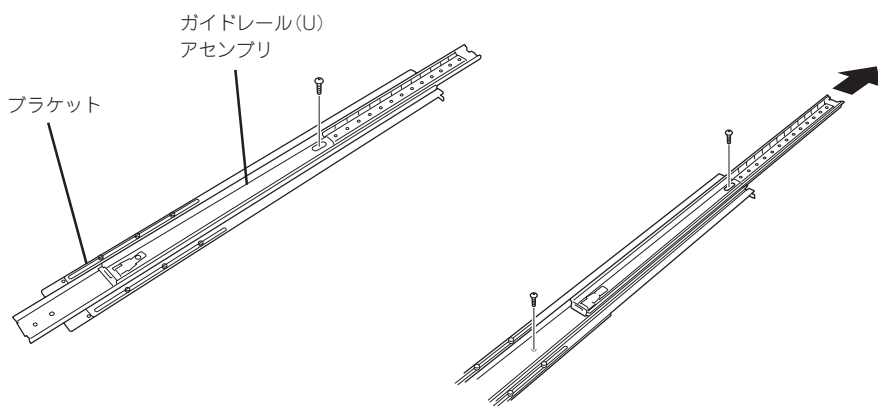
12. 前面の両側にあるセットスクリューでExpressサーバをラックに固定する。

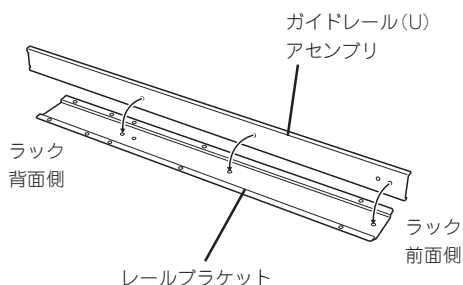
13. フロントベゼルを取り付ける(32ページ参照)。

取り付け手順　～N8540-28/29/38用～

N8540-28/29/38をラックへ取り付けるときは、次の手順に従ってください。

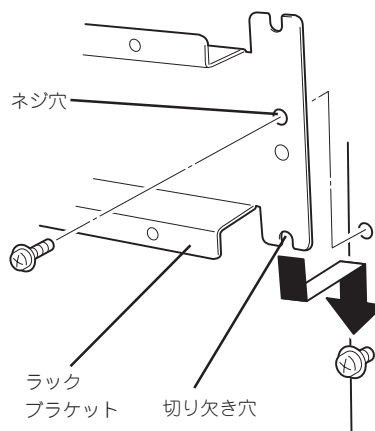
1. ガイドレール(U)アセンブリからブラケットを取り外す。

   レールをスライドさせてネジ(3本)を取り外してください。

2. ガイドレール(U)アセンブリをレールブラケットに取り付ける。

   ネジ穴(3カ所)を合わせてからレールブラケットの上にガイドレール(U)アセンブリを置きます。手順1と同様の方法でレールをスライドさせてネジ(手順1で取り外した3本)で固定します。

3. ラックブラケットを固定する。

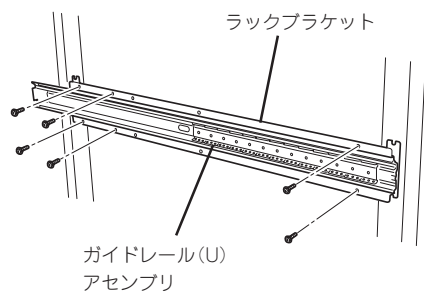
   ラックブラケットの下側を固定するネジCを仮止めし(前後とも)、ラックブラケットをネジの上に載せてから固定します。

   チェック

   - ラックブラケットは上側のネジ穴と下側の切り欠き穴で固定されます。それぞれの穴とラックのネジ穴が合っていることを確認してください。
   - レールが水平に位置決めされていることを確認してください。

4. ラックブラケットにガイドレール(U)アセンブリをネジC(6本)で固定する。

5. もう一方のラックブラケットにガイドレール(U)アセンブリを手順1〜4と同様の手順でラックに取り付ける。

チェック

すでに取り付けているガイドレール(U)アセンブリと同じ高さに取り付けていることを確認してください。

6. 「取り付け手順　〜NEC製ラック/他社製ラック〜」の手順6〜13を行う。

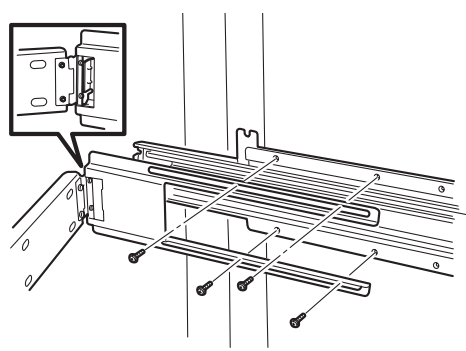
重要

ただし、手順8のアームアセンブリ(SA)の取り付けでは、右図のようにアームアセンブリ(SA)の継ぎ目の部分とガイドレール(U)アセンブリの先端を突き当てて、アームアセンブリ(SA)の取り付けに必要なネジをガイドレール(U)アセンブリからいったん取り外し、アームアセンブリ(SA)と共締めし直します。

以上で完了です。

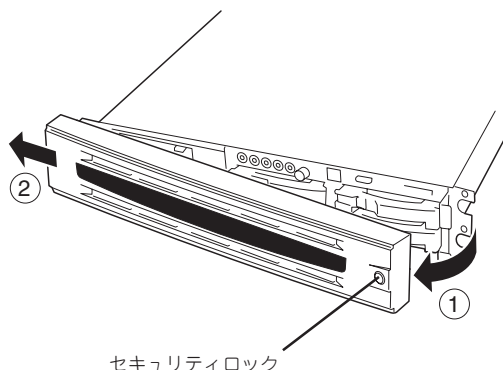
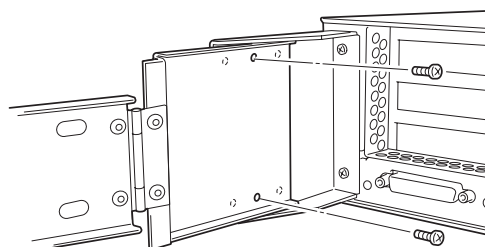
取り外し手順

ラックからの取り出し作業は必ず複数名で行ってください。

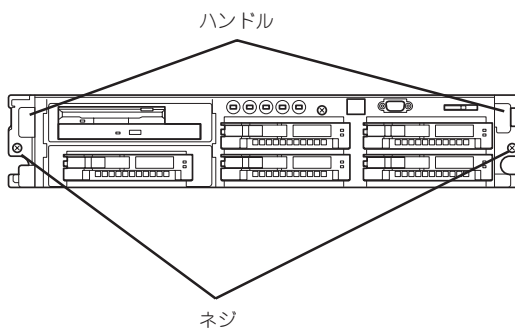
⚠注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- **一人で持ち上げない**
- **指を挟まない**
- **ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない**
- **複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない**
- **動作中に装置をラックから引き出さない**

1. セキュリティロックを解除してフロントベゼルを取り外す。

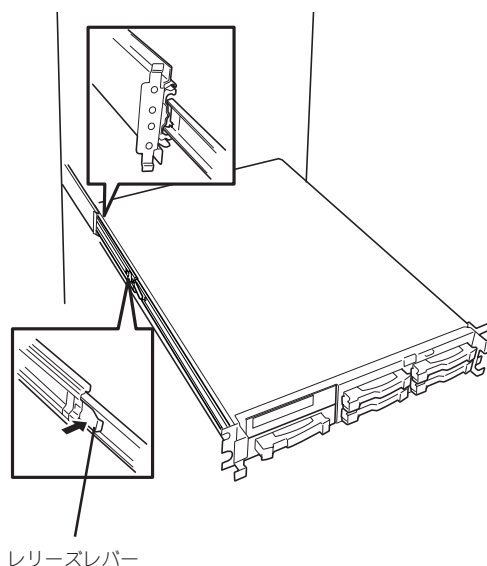
2. Expressサーバの電源がOFFになっていることを確認してから、Expressサーバに接続している電源コードやインタフェースケーブルをすべて取り外す。

3. ケーブルアームを固定しているネジ2本を外し、ケーブルアームをExpressサーバから取り外す。

4. 前面のネジ2本をゆるめる。

5. ハンドルを持ってゆっくりと静かにラックから引き出す。

「カチッ」と音がしてラッチされます。

6. 左右のレリーズレバーを押してラッチを解除しながらゆっくりとラックから引き出す。

重要

複数名で装置の底面を支えながらゆっくりと引き出してください。

ラックの機構部品も取り外す場合は、「取り付け手順」を参照して取り外してください。

接　続

StorageServerの背面にケーブルを接続します。

⚠警告

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- ぬれた手で電源プラグを持たない
- アース線をガス管につながない

⚠注意

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外のコンセントに差し込まない
- たこ足配線にしない
- 中途半端に差し込まない
- 指定以外の電源コードを使わない
- プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない
- 指定以外のインタフェースケーブルを使用しない

接続するケーブルは、ネットワークケーブルとSCSIケーブル、UPSとの接続ケーブル、添付の電源コードです。それ以外のコネクタには接続する必要はありません。
まずはじめにネットワークケーブルを背面のLANポート0に接続します。複数のネットワークケーブルを接続する場合は、LANポート番号の小さい順に接続してください。コネクタの位置やボード番号については「各部の名称と機能（10ページ）」を参照してください。

重要

- StorageServer、および接続する周辺機器の電源をOFFにしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります。
- 無停電電源装置（UPS）のシリアルインタフェースはシリアルポート1（COM1）コネクタに接続してください。初期状態では、シリアルポート2（COM2）コネクタは管理PC（保守管理コンソール）との通信をするためのインタフェースに設定されています。シリアルポート2コネクタにUPSを接続すると誤動作の原因となります。
- COM3以上を使用する場合は、多回線ボードが別途必要です。
- N8100-725をお使いの場合は、電源コードをケーブルタイで固定してください。

システムのセットアップ

StorageServerシステムのセットアップは専用の初期設定ツールを使います。初期設定ツールは「Express5800/StorageServer 保守・管理ツールCD-ROM」に格納されています。Windowsマシンにインストールしてから使用してください。

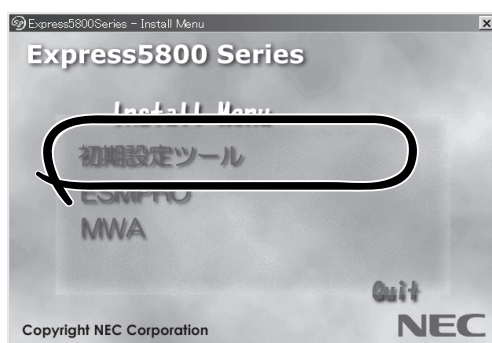
初期設定ツールのインストール

Windowsマシンに初期設定ツールをインストールします。添付の「Express5800/StorageServer 保守・管理ツールCD-ROM」を用意してください。

1. Windows 95/98/Me/2000、またはWindows NT 4.0が動作するマシンのCD-ROMドライブにExpress5800/StorageServer 保守・管理ツールCD-ROMをセットする。

   Autorun機能によりInstall Menuが自動的に表示されます。表示されない場合は、CD-ROMドライブ内の「¥IMENU¥1ST.EXE」を実行してください。

2. [初期設定ツール]をクリックする。

   以降は画面に表示されるメッセージに従って作業してください。作業を完了すると初期設定ツールがインストールされます。

セットアップの準備

StorageServerを設定するにあたってStorageServerのLANポートコネクタ0に割り当てる次の情報と、1.44MBフォーマット済みの3.5インチフロッピーディスクを準備してください。10ページの「各部の名称と機能」を参照して、LANポートコネクタの位置を確認してください。

- コンピュータ名
- 管理者パスワード
- ワークグループ名（ワークグループに属する場合）
- ドメイン名（ドメインに属する場合）
- ドメイン管理者アカウントとパスワード（ドメインに属する場合）
- IPアドレスとマスク値
- デフォルトゲートウェイ
- DNSサーバのIPアドレス
- プロダクトキー

プロダクトキーはStorageServer本体に貼られているラベルに記載されています。

設定ディスクの作成

Windows 95/98/Me/2000、またはWindows NT 4.0が動作するマシンで、準備したフロッピーディスクにStorageServerの設定情報を記録します。

1. スタートメニューから[StorageServer]→[初期設定ツール]の順で選択して初期設定ツールを起動する。

2. 準備したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする。

3. 準備した情報をそれぞれ該当する欄に入力する。

重要

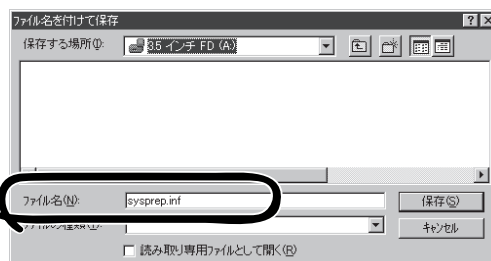
DHCPサーバが存在しない環境でStorageServerをドメインに参加させる場合は、この後の「ドメインへの参加」を参照してください。

4. [保存]ボタンをクリックしてフロッピーディスクに保存する。

チェック

このときのファイル名は「sysprep.inf」としてください。

重要

管理者パスワードを設定すると、管理者パスワードはフロッピーディスクにプレーンテキストにて保存されます。このため、設定ディスクの内容をStorageServerにインポートした後、直ちにこの管理者パスワードを変更することをお勧めします。管理者パスワードの変更はWebUIを使用します。また、設定ディスクの内容をStorageServerにインポートするには、次の「設定のインポートとチェック」を参照してください。

5. [終了]ボタンをクリックして、初期設定ツールを終了する。

   以上で初期設定が登録されたStorageServerの設定ディスクが作成されました。

設定のインポートとチェック

StorageServerの設定ディスクの内容をStorageServerにインポートします。

1. StorageServerのLANボードコネクタ0にLANケーブルを接続して、ネットワーク環境として使用するHUBに接続する。

   チェック

   10ページの「各部の名称と機能」を参照して、LANポートコネクタの位置を確認してください。また、初期設定ツールで指定したIPアドレスはここに割り当てます。

2. 設定ディスクをStorageServerのフロッピーディスクドライブにセットする。

3. StorageServerの電源をONにする。

   StorageServerが起動を開始します。StorageServerの起動後、設定ディスクから環境データがインポートされます(約10分)。

   StorageServerの初回起動は、起動時のビープ音で確認します。ビープ音のパターン(ビープ音を2回長く4回短く)を4回繰り返したら、StorageServerは正常に起動したことになります。

4. 40ページの「StorageServerへの接続」を参照してStorageServerにアクセスできることを確認する。

以上で完了です。

ただし、StorageServerの詳細な設定やStorageServerにインストールされている管理アプリケーションの固有のセットアップが必要です。3～4章を参照してセットアップをしてください。
StorageServerにインストール済みのアプリケーションは次のとおりです。

- ESMPRO/ServerAgent
- Global Array Manager Server
- 自動クリーンアップツール
- Array Recovery Tool
- エクスプレス通報サービス

すべてのセットアップが完了したら、StorageServerのシステム情報のバックアップをとります。バックアップは保守・管理ツールにある「オフライン保守ユーティリティ」を使用します。オフライン保守ユーティリティの起動方法やシステム情報のバックアップの手順については、4章を参照してください。

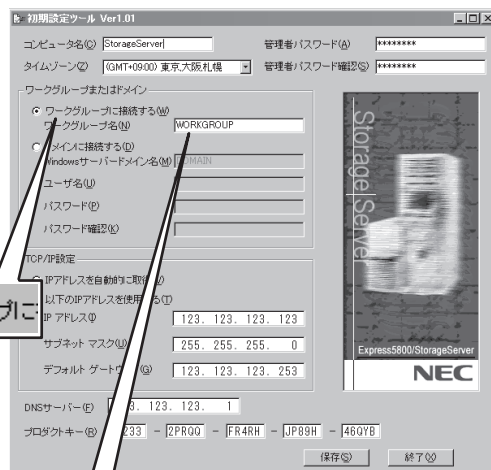
StorageServerの再セットアップをする場合は267ページを参照してください。

ドメインへの参加

DHCPサーバが存在しない環境でStorageServerをドメインに参加させる場合は、以下の手順に従ってください。

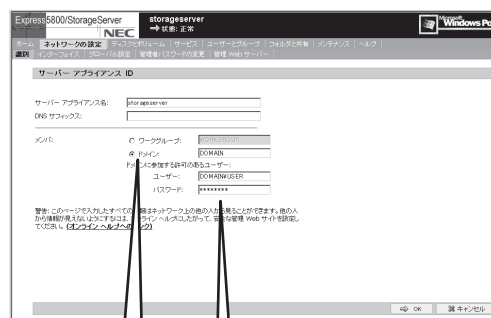
1. 「設定ディスクの作成」に従って設定ディスクを作成する際に、必ず[ワークグループに接続する]に設定する。

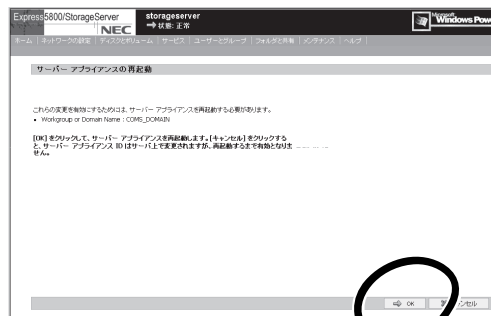
   重要

   ワークグループ名には既存のドメイン名は使用しないでください。

2. 手順1で作成した設定ディスクを使ってStorageServerを起動する。
3. StorageServerが起動したら、WebUIの「ネットワークの設定」→「識別」の画面を開く。
4. 「ドメイン」を選択し、ドメインコントローラに登録されている「ドメイン名」、「ユーザ名」および「パスワード」を設定し、[OK]ボタンをクリックする。

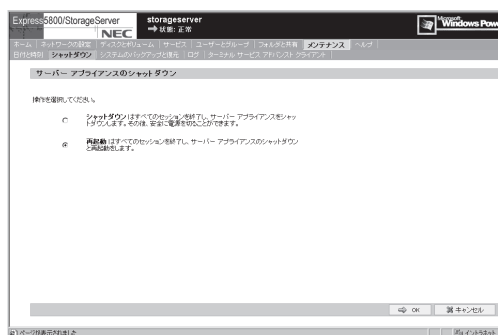
   入力したドメイン名、ユーザ名が確認される(環境により10数分かかります)と再起動の画面が表示されます。

   重要

   ドメインコントローラがWindows NT 4.0のときには、「ユーザ名」には必ず「ドメイン名¥」を先頭につけて「ドメイン名¥ユーザ名」と入力してください。

5. [OK]ボタンをクリックして再起動する。

再起動が完了すると、ドメインへの参加が完了します。

＜手順5に示す画面が表示されません＞

再起動の画面が表示されない場合は、次の手順を行ってください。

ブラウザの[更新]ボタンをクリックするなどして、WebUIの画面が表示されたら、[メンテナンス]→[シャットダウン]を選択し、[再起動]を選択し、StorageServerを再起動させる。

<いえ、上の画面が表示されません>

次の手順を行ってください。

一度ブラウザを終了し、WebUIを再起動してください。それでもアクセスできない場合には、StorageServerのPOWERスイッチを押して終了後、あらためて電源をONにしてください。詳細は1章の「StorageServer について」の「強制電源OFF」や「電源のON」を参照ください。

BIOS設定の注意点

通常、BIOSの設定を変更する必要はありませんが、PCIカードを増設した場合にBIOSの設定の変更が必要になることがあります。以下の点を確認してください。

- コンソールリダイレクションの設定
- BIOSのデバイスのブート順の設定
- Installed O/Sの設定

コンソールリダイレクションの設定については、「Express5800/StorageServer 保守・管理ツールCD-ROM」を起動し、終了するだけで最適な設定になります。Express5800/StorageServer 保守・管理ツールCD-ROMの起動方法は、4章の「StorageServerアプリケーション」の「保守・管理ツール」を参照してください。

BIOSの設定は、MWAをインストールしたリモートコンソール上から次の手順で確認・修正ができます。

設定状態は、「Express5800/StorageServer 保守・管理ツールCD-ROM」から起動し、「オフライン保守ユーティリティ」の「BIOS セットアップ情報の表示」で確認することもできます。

1. リモートコンソールのディスプレイ画面に「Press <F2> to enter SETUP」と表示されている間に<F2>キーを押す。

   BIOSのSETUPユーティリティを起動します。

2. 「Advanced」メニューを選択する。

3. 「Installed O/S」が「PnP O/S」になっていることを確認する。

   他の設定になっている場合は、「Installed O/S」で<Enter>キーを押して「PnP O/S」を選択してください。

4. 「Boot」メニューを選択する。

5. 以下の順にデバイスが設定されていることを確認する。

   1. [ATAPI CD-ROM Drive]
   2. [Hard Drive]
   3. [Disskette Drive]

   上記の順でなかった場合は設定を変更してください。

6. 内容を保存してSETUPユーティリティを終了する。

以上で完了です。

オプションソフトウェアの追加

StorageServerにはいくつかのオプションソフトウェアがあります。オプションソフトウェアは工場出荷時にはインストールされていません。使用前にインストールする必要があります。各ソフトウェアをインストールするには、まずは以下の手順でStorageServerにアクセスします。

オプションソフトウェア	
バックアップ関連	VERITAS NetBackup
	VERITAS Backup Exec
アンチウィルス関連	Trend Micro ServerProtect Computer Associates InoculateIT

1. ［ホーム］ページから、［メンテナンス］を選択する。
2. ［ターミナルサービスAdvanced Client］を選択する。
3. オプションソフトウェアのCD-ROMをStorageServerのCD-ROMドライブにセットする。
4. ターミナルサービス内でエクスプローラを起動し、CD-ROM内のセットアップ用のプログラムを実行する。

   ※　セットアッププログラム（「X」は CD-ROMドライブのドライブレター）

   NetBackup .... X:_AutoRun_AutoRunI.exe
   Backup Exec .... X:_Browser_setup.exe
   ServerProtect......................... X:_PROGRAM_setup.exe
   InoculateIT .... X:_IntelNT_InocuLAN_Server_setup.exe

ヒント

各ソフトウェアの詳細は、各ソフトウェアの説明書、オンラインヘルプなどを参照してください。